

200日移動平均線からみた日米株

ポイント① S&P500は200日MAを超えられず

7月以降、米国のインフレやFRB（米連邦準備制度理事会）の金融引き締め動向を巡って、市場で楽観的な見方が広がったことを背景に、米国株は戻りを試す展開が続いてきました。ただ、S&P500種株価指数は、長期トレンドをみる上で重要な200日MA（移動平均線）を前に利益確定売りが膨らみ、同水準を超えられなかったことから、米国株の戻りは目先一服したのではないかとこの見方が広がっています（右上図）。

一方、日本の代表的な株価指数である日経平均株価は200日MAを上回り、かつ、同線が上向きに転じつつあるなど、テクニカル面からみて、米国株と比べ日本株の上昇期待が高まっているようにみえます。

ポイント② 利益見通しは「米国株<日本株」

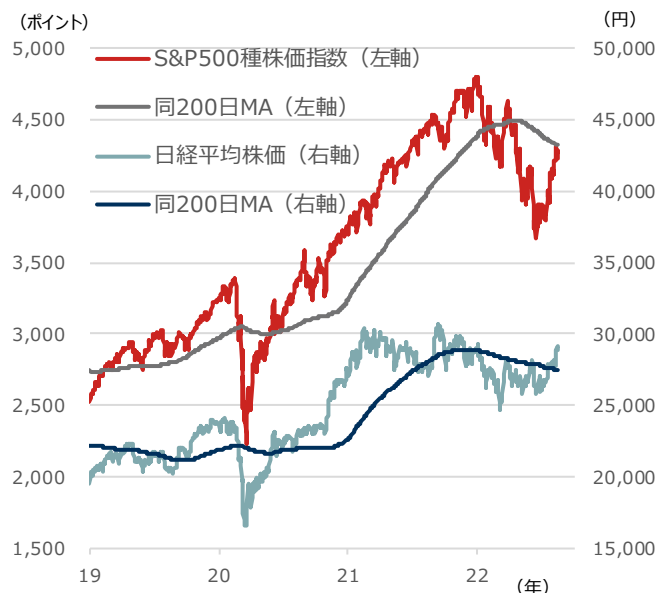
業績面からみても日本株の優位性が高まりつつあると考えられます。日米株の12ヵ月先予想EPS（1株当たり利益）をみると、足元ではS&P500種株価指数の同EPSが低下する半面、TOPIX（東証株価指数）のそれは上昇基調が持続するなど、対照的な動きとなっています（右下図）。

相対的に輸出企業が多い日本株は、最近の円安が企業業績を押し上げ、世界的な景気減速の影響等を相殺するとみられ、当面は日本株優位の展開が続く可能性があります。ただ、2022年に続き、2023年と2024年も増益基調は続くことから、米国株の長期的な先高期待は強いともいえます。目先は金融・経済シンポジウム（ジャクソンホール会議）や雇用統計、インフレ指標などを見極める必要があります。米国株は不安定な動きとなる可能性もありますが、長期的な視点で米国株には投資妙味があると考えられます。

シニア・ストラテジスト 石黒英之

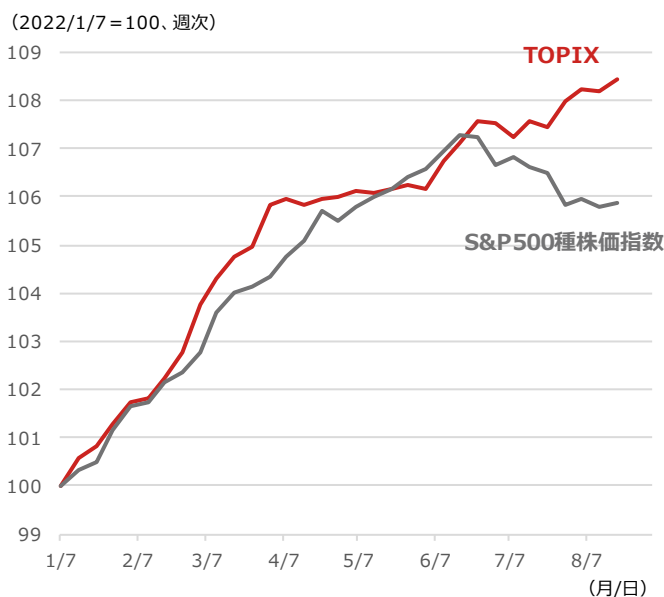


日米株と200日移動平均線



期間：2019年1月4日～2022年8月19日、日次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

日米株の12ヵ月先予想EPS



期間：2022年1月7日～2022年8月19日、週次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全体の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。